雑学書庫 知識の記録

保険が招く気のゆるみ、モラルハザード（Moral Hazard）

記事のURL

https://www.gklibrarykor.com/ja/article/15486/

PDFレイアウトのプレビュー - 本文の一部のみ

自動車保険に入ってから、駐車場を選ぶときに確認がひとつ減ったとしたら、その変化は単なる怠けではないかもしれません。事故や盗難の費用の一部が、今や保険会社の負担になったからです。このように、リスクが他人に移った後に行動がゆるんだり、より大胆になったりする現象を、経済学では「モラルハザード（Moral Hazard）」と呼びます。 モラルハザードとは、簡単に言えば「一方がリスクを引き受けた後、もう一方がそのリスクを大きくする方向に行動を変える現象」を意味します。契約や保険が結ばれた後に表れる隠れた行動（hidden action）の問題であり、ケネス・アロー（Kenneth Arrow）が1963年に医療保険を論じる中で経済学に本格的に取り入れた古典的な概念です。名前に「モラル（道徳）」と入っていますが、今日の経済学では倫理的な非難よりも、インセンティブと情報の非対称性が生む非効率を指す言葉として使われます。 本稿では、モラルハザードの意味と逆選択との区別、日常や金融に現れる姿、そして自己負担額・共同負担・モニタリングのようにリスクを分け合って行動をつなぎとめる仕組みまで、順に見ていきます。 保障が行動を変えるときに生まれるインセンティブ モラルハザードとは何か? モラルハザードは取引が終わった後に生じます。契約時点では互いに似た情報を持っていても、その後一方がどれだけ注意しているか、